令和７年２月２８日

令和６年度　第３回　大阪府立平野支援学校　学校運営協議会　議事録

大阪府立平野支援学校
校長　　川村　典子

日　時	令和７年２月１７日（月）　１０：００～１２：００
場　所	大阪府立平野支援学校　小会議室
参加者	陸奥田　維彦（委員）　岩元　康（委員）　市場　達朗（委員） 谷藤　誠宏（委員）　中野　淳子（委員）　松本　理香（委員） 川村　典子（校長）　長谷川　真哉（教頭）　橋本　伸彦（教頭）　中川　忠彦（事務長） 井本　勇気（首席）　橋本　万以子（首席）　玉井　実加（指導教諭） 阪本　祥子（小学部主事）　飯塚　恵子（中学部主事）　杉本　琢哉（高等部主事）
次第	(1)授業見学　小学部5,6年生「おはなし」　(2)各学部　年間テーマの総括 (3)学校教育自己診断　結果と考察について　(4)学校経営計画　令和６年度　自己評価について (5)令和７年度　学校経営計画について　〇自立活動の指導力向上について (6)協議
意見等の概要	(1)授業見学について ・絵本「ともだちや」の映像を見終わってから、友だちや教員の声を聞いて楽しそうにしている児童がいた。児童によって、画面が見やすいように場所や向きなどの工夫が見られたと評価された。ただ、継続して画面を見ることが目標であるなら、もう少し画面に近いほうが児童にとってよいと感じる。また、活動においては自発的な動きを引き出せる工夫が必要であると指摘を受けた。 (2)各学部　年間テーマについて ・「協働」「寄り添う」ことは子どもに対してだけでなく教職員が互いに意識し行動することが重要であり、それが子どもたちにフィードバックされていくと教示された。ひらのスタンダードを基盤とし、子どもたちを支えるチームとして指導していることを評価された。 **※ひらのスタンダードとは、学校教育目標及びめざす児童生徒像を実現するための基盤となる「授業づくり及び実践のスタンダード」として、今年度策定したもの。** (3)学校教育自己診断　結果と考察について ・肯定的回答率の低い質問について対応策を説明した。「8. 学校は、お知らせ文書や学校ホームページ、マチコミなどから、積極的に情報を発信している。」という設問に対し、学校からの情報発信に対する保護者のとらえ方は様々である。とても時間がかかるが個人情報の観点も踏まえ、ぜひ検討していってほしいと助言を受けた。 (4)学校経営計画　令和６年度　自己評価について ・承認された。 (5)令和７年度　学校経営計画について ・今後、評価指標を一部改定することを含めて承認された。 ・To-Be 平野支援学校について、学校の教育活動全体のグランドデザインであり、教職員がチームとして向かう方向性が視覚化されていることが素晴らしい。教職員間で協力はできやすいが、協働は簡単には実行できない。役割分担と補完性を一人ひとりが認識し、お互いがどんな仕事をしているか知った上で、はじめて協働が成り立つ。難しいことだが今後も進めていってもらいたいと助言を受けた。平野支援学校は、子どもに寄り添うとは何か？支援とは何か？を問い続けている。将来に向けての目的を持ち、子どもたちを育んでいる教職員集団であると高評価を受けた。グランドデザインとして、見える所と見えない所がある。土の部分は周りから見えない部分である。めざす教師像や学部目標は、周りに広く伝えられるデザインである方がよりよいとの指摘を受けた。 **※ To-Be 平野支援学校とは、「学校教育目標」「めざす児童生徒像」とともに、今年度設定した「各学部の目標」「めざす教師像」、これらを包括して「本校がめざす姿」を図式化したものです。** ・支援学校の働き方改革は、教職員集団も大きく、３つの学部もあることなどからとても難しい。教育活動と業務を切り分け、業務改善として思い切って削減することも大切。教職員が、やってよかったと思える改革をすることが、子どもたちへのフィードバックとなると助言を受けた。 〇自立活動の指導力向上について ・共通のアセスメントシート、話し合いシートを活用している。より専門的に自立活動について学んでいく予定と説明した。CAP－Do サイクルとして、うまくいったことや課題を振り返り、来年度へ引き継ぎをしていくよう要望された。
備　考	・傍聴者　　なし